

みなさんの思いを町へ届けます

辰野町 議会だより

No.67

辰野の地

清浄であれと

神楽舞う



絵・せきもとなおひろ

今月の記事

満 18 歳までの医療費、窓口無料化へ

～来年 8 月から、1 件 500 円の負担金は今後の課題～

- 9 月定例会 …… 2P
- 一般質問 …… 10P
- 議会報告会開催、議会あり方検討委員会発足 …… 15P
- 各常任委員会タウンミーティング開催 …… 16P

加島町長 最後の定例会

町提出 31 議案、議員提出 5 議案を可決

28年度一般・特別会計決算を認定

歳出総額は155億1千69万円
5億5千848万円の実質黒字

9月定例会は、9月4日に開会し、20日までの日程で開催されました。

今議会に付議された議案等は町提出の条例関係5件、平成28年度一般会計・特別会計決算13件と平成29年度一般会計・特別会計補正予算7件、人事案件4件、その他1件、報告事項2件、追加提案の契約1件、請願・陳情7件、議員提出5件でした。

この内、初日に条例5件、補正予算5件、人事案件4件、その他1件を可決しました。また、補正予算2件（一般会計と簡易水道特別会計）を自宅審査とし、平成28年度一般会計・特別会計決算13件、請願・陳情7件を各常任委員会に付託しました。

した。

さらに、平成28年度財政指標等の報告を受けました。

一般質問は11日・12日に行われ、議員11人が町政について質しました。

最終日の20日には、両委員会に付託された各会計決算について委員長の審査報告があり、報告のとおり認定しました。

また、自宅審査に付された補正予算2件を全会一致で可決し、さらに、追加提案された契約1件を可決しました。請願・陳情については、委員長の審査報告に基づき採決、2件を採択、1件を一部採択、4件を不採択としました。最終日に提出された議員提出議案5件は、意見書の提出を求めるもので、いずれも可決のうえ、国・県へ意見書を提出しました。

なお、今議会は加島町長任期最後の定例会となりました。加島町政の総括に関して質問がされるとともに、町長

からは町民・議会への感謝の挨拶があり、閉会に際して、岩田議長から町長へのねぎらいの言葉がありました。

小野保育園耐震化工事等が完成

28年度一般会計決算

28年度一般会計決算に関する総務産業・福祉教育両常任委員会及び本会議での主な審査内容は次のとおりです。

なお、上水道事業会計、町立辰野病院事業会計、その他特別会計決算については、各常任委員会報告を参照してください。

円の増となりました。

交付税は、国勢調査による人口等をもとに算出されており、減額要因となりました。

臨時財政対策債が多くなっているが、償還に際しては交付税に算入するルールになっている。

歳入

町税は24億3千7百万円
前年比2千5百万円増

歳入総額91億6千857万円で、前年比3億2千86万円、3.6%の増です。地方交付税、国庫支出金がそれぞれ1億2千万円の減となる一方、町税は2千4百万円、繰入金9千1百万円、繰越金2億5千2百万円、町債1億1千万

歳出

歳出は87億4千880万円
前年比4億4千9百万円増

議会費 前年度比662万円、6.7%の減です。
総務費 前年度比5千735万円、4.9%の減です。
問 宅地標準地不動産鑑定の委託か所は、3年毎の評価替えに向け

て127カ所で鑑定した。
問 町内のマイナンバー発行枚数は。

答 現在1,685枚で全体の9.1%。発行率は県内14位。

問 一般会計決算の実質収支は、どの位が理想的か。

答 3億円位。1億5千万円を次年度繰越に、残り1億5千万円を基金積立財源に。

■ 民生費

前年度比1億8千79万円、7.9%の増です。小野保育園耐震化工事等を行いました。



小野保育園耐震化工事

問 地域活動支援センターが手狭になってきているが、改善に向けた予定は。

答 就労支援事業の場所も含め検討中である。

問 延長保育の保育士は足りているか。

答 延長保育の保育士だけでなく、学童クラブの支援員の確保も含め、非常に厳しい状況。

問 保育士の処遇について、正規と臨時・非常勤の格差が大きいのでは。

答 辰野町の非常勤保育士の割合は上伊那の平均よりも低い。そのうえで、正規職員採用の22歳の枠を撤廃し、30歳まで広げ、また増員を町当局に働きかけている。

問 平出保育園の移転新築については。

答 個別、平出保育園としてはなく、東部保育園との関係、他施設との共用、場所、規模も含めて検討が必要。

■ 衛生費

前年度比6千280万円、6.1%の増です。

問 訪問看護ステーション事業は、看取り等ありがたかったという評価も高い。黒字化への課題は。

答 事業拡大すれば黒字化も可能と思われるが、スタッフの確保が困難である。

問 新ゴミ中間処理施設では可燃物とプラスチックは混在しても良いのではないか。

答 見直しの意見が出てくるかもしれないが、リサイクルの意識高揚のために、現在の分別方法を堅持していきたい。

■ 農林水産業費
 前年度比1千2万円、3.6%の減です。

問 太陽光発電の農地転用の件数は。

答 平成27年度は9件で総面積5,392㎡、平成28年度は8件で20,627㎡。

問 役場職員によるキノコ山整備の趣旨は。

答 就職1、2年目の職員の研修を兼ねて行った。何年後かに収穫できれば、ふるさと納税に期待できるし、町の財産を見直すことにもなる。

■ 商工費

前年度比3千978万円、9.7%の増です。

問 商工業振興資金預託金の仕組みは。

答 町制度資金による町内企業向け融資のためのもの。金

融機関に預託金を預けることにより、その金額の4倍まで融資が可能になる。

意見 この預託金には担保性がなく、将来的には是正されるべき。

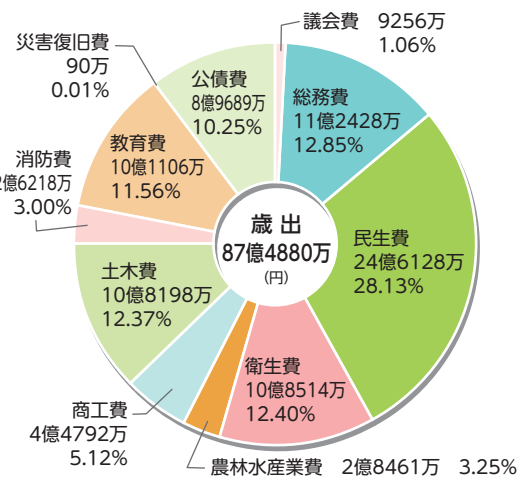
■ 土木費
 前年度比691万円、0.6%の減です。

問 定住促進奨励金の拡充は。

答 新たに住宅金融支援機構と連携して住宅ローンの金利引下げ制度「フラット35」を始めた。

問 辰野駅前街なみ環境整備事業推進業務委託の内容は。

答 駅前整備事業は、まず地元住民による委員会が立ち上がり、街なみ計画を作成し、街づくり協定が締結され、国土交通大臣の同意を得て、実施の運びとなる。今回の委託料は、この準備で現状把握の基礎資料を作るためのもの。



平成28年度一般会計歳出 目的別内訳

問 空室となっている町営住宅の今後の方針は。

答 棟の一部に入居者がいるケースが多く、対応策に苦慮している。

■ 消防費

前年度比150万円、0.6%の増です。

問 常備部の今後について検討が必要では。

答 常備部に限らず、自主防災組織や機能別消防団員についても検討が必要である。

■ 教育費

前年度比529万円、0.5%の増です。

問 発達障がいのある児童・生徒、クラスの状況は。

答 少しずつ増え、西小4・東小2クラス。様々な障がいのパターンがある。診断を受け、教育委員会が判断している。

問 学童クラブ利用者が多くなりすぎて、人数に合わせた施設整備が必要ではないか。

答 西小で通常100人(夏休みに39人増加する)。東小は通常90人(同20数人増)、南小は通常24人(同19人増)、西小野小は通常43人(同15人増)。いずれも、支援員の数、場所の広さともに限界にきていると思われる。事故が起こらないようにするだけで手一杯の状態。



学童クラブの様子

問 小野図書館の今後は。
答 利用登録は多いが、一般利用者は延べ133人のみ。

この人たちを交えて今後の方向を検討したい。

災害復旧費

前年度比269万円、75・0%の減です。

公債費

前年度比2億2千259万円、33・0%の増です。

条例改正と主な内容

新たな教育委員会制度による新教育長へ移行

○教育長の職務に専念する義務の特例に関する条例制定
○特別職の職員で常勤のもの等の旅費に関する条例及び特別職の職員で非常勤のものとの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正
・以上2件は、これまで教育委員会を代表していた教育委員長職を廃し、その権限を町長任命の教育長に一本化し、教育委員会の責任者とする新たな教育委員会制度への移行に伴う改正

職員の育児休業等に関する条例の一部改正

・育児休業の適用を一部の非常勤職員や養育里親等へ拡

**大するもの
乳幼児等医療費**

18歳まで窓口無料化へ

○医療費特別給付金条例の一部改正
・満18歳到達後の3月31日までの乳児等への医療費補助を現物給付(窓口無料化)にするもの

1レセプト当たり500円を差し引く負担額についての変更は。

問 変更の予定はない。
答 ○町営住宅管理条例の一部改正
・荒神山団地等3団地のうち、老朽化した住宅の解体に伴うもの。

補正予算と主な内容

○平成29年度一般会計補正予算(第2号)

・ふるさと寄付金の増額と謝礼の増額

問 返礼金等の経費割合が約40%になるが。
答 現在は全て3割以内になつていますが、それ以前の駆け込み利用分がある。2社のインターネット紹介サイト利用料金も含んでいる。

・危険家屋判定の住宅の解体
・両小野診療所併設の介護施設等の施設開設準備等支援事業補助金

・町民体育館LED照明取替工事 他

○平成29年度上水道事業会計補正予算(第2号)

○平成29年度公共下水道特別会計補正予算(第1号)

・以上2件は県道与地辰野線の配水管・下水道布設工事に関するもの 他



工事進む県道与地辰野線

○平成29年度簡易水道特別会計補正予算(第1号)

・飯沼沢の膜ろ過設備設置に伴う仮設費用の増額分

○平成29年度特定環境保全公共下水道特別会計補正予算(第1号)

・移動脱水車用凝集剤 他
○平成29年度国民健康保険特

別会計補正予算(第1号)
・過年度分精算に伴う国庫返戻金と予備費の増額

○平成29年度介護保険特別会計補正予算(第2号)

・サービス給付等の増額及び過年度分精算に伴う国庫返戻金の減額

問 サービス給付の増額内容は。
答 返戻金が見込みより少なかったため、利用増に向け通所・訪問サービス、委託事業(よつば、ゆい)の拡充に振り向ける。

その他の議案と主な内容

○契約の締結について
・たつの未来館(仮称)再整備工事請負契約(旧ウオーターパーク管理棟の再整備工事)

○損害賠償の額の決定及び和解について
・辰野病院における扁桃腺摘出手術の際に永久歯が抜けたことに伴う費用の補償

○人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
・委員6名中2名の任期満了

に伴い荒井佳世子氏、塚間大治氏（ともに新任）の推薦に同意。任期3年。

○教育委員会教育長の任命について

・新教育委員会制度への移行に伴う新教育長に10月1日から宮澤和徳氏を任命することに同意。任期3年。

○教育委員会委員の任命について

・委員5名中1名の任期満了に伴い関政彦氏（新任）の任命に同意。任期4年。

○固定資産評価審査委員会委員の選任同意について

・委員3名中1名の任期満了に伴い小澤重八氏（再任）の選任に同意。任期3年。

報告事項と主な内容

○地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく平成28年度財政指標等の報告について

・普通会計の実質赤字比率等の指標と、企業会計の資金不足比率について、いずれも健全財政を維持しているとの報告。

○専決処分報告について

・町が損害賠償の責を負うものについての専決処分1件

請願・陳情について

・別表のとおり

議員発議による意見書

○「全国森林環境税」の創設に関する意見書……可決（賛否は陳情採択と同じ）

（この意見書に対しては、陳情採択の際と同趣旨の根拠議員の反対討論あり）

○廃棄物の最終処分場建設について住民に寄り添った指導・判断をするよう求める意見書……可決（全会一致）

○私立高校への公費助成に関する意見書（国宛て及び県宛ての2件）……可決（全会一致）

以上は、陳情採択によるもの。○道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律による補助率等の高上げ措置の継続に関する意見書（趣旨）今年度までとなっている地域高規格道路等のかさ上げ措置の継続を求めるもの。

……可決（全会一致）

請願・陳情の審議等の結果

件名	提出者	委員会審査	本会議		
			賛成	反対	議決結果
「全国森林環境税の創設に関する意見書採択」に関する陳情について	全国森林環境税創設促進議員連盟	採択	11	2	採択
1 <質問：根橋>県の森林税との関係や国税としての配分の問題等不明確。時期尚早・継続審査という意見はなかった。	<答弁：委員長>そのような意見はなかった。				
<反対討論：根橋>森林荒廃の対策に国が十分な予算を付けないため、地方が森林税を設けた。新たに国税として徴収するには、二重徴収になるおそれや、森林税のあり方について賛否様々な意見がある。今議会での議決は時期尚早、議会として十分に調査研究が必要で継続審査とすべき。	<賛成討論：宇治>山林地域の市町村が森林整備に必要な財源が確保できるように、地方で森林税を設けた。森林環境税創設をめざす市町村や議会の活動も始まっている。この案では間伐に限らず森林整備保全のために森林面積に応じて配分される。地方の森林税との調整は当然行われるものとする。				
2 私立高校に対する公費助成をお願いする陳情書	中信地区私学助成推進協議会	一部採択	13	0	一部採択
3 廃棄物の最終処分場建設について住民に寄り添った指導・判断をするよう求める意見書の採択を求める陳情書	宮田の環境を守る会	採択	13	0	採択
4 オスプレイの日米共同作戦参加中止および飛行全面停止、沖縄配備撤回を求める陳情	「平和って何だ」伊那谷	不採択	1	12	不採択
<質問：向山>3月議会では同趣旨のものを採択しており、その後も事故が相次ぐ中で、一部採択の意見はなかったか。	<答弁：委員長>そのような意見はなかった。				
5 アメリカ追従の軍事圧力路線を正し不戦の対話外交と国会決議を求める陳情	「平和って何だ」伊那谷	不採択	1	12	不採択
<質問：向山>陳情の趣旨は、国民レベルの対話による平和的解決をめざすというもの、一部採択の意見はなかったか。	<答弁：委員長>そのような意見はなかった。				
6 核兵器禁止条約に日本政府も参加することを求める意見書提出の請願	原水爆禁止上伊那地区協議会	不採択	5	8	不採択
7 国に対して「核兵器禁止条約への批准を求める意見書」の提出を求める請願書	上伊那医療生活協同組合辰野支部	不採択	5	8	不採択
<反対討論：成瀬>核保有国が参加しない条約は、核保有国の協力のもとに進められる核廃絶へのプロセスが担保されていない。大事なことは国が批准することではなく、核軍縮への道を開くこと。我が国は核保有国・非保有国双方の対話を促すために賢人会議を主催するので、効果ある提言を期待する。	<賛成討論：向山>核兵器を保有する国がある限り、力の均衡を保つために、新たに核兵器を持つとする国が現れることは当然のこと。全ての国が核兵器を廃絶することこそが人類の英知であり、この条約を批准して、国際的な取り組みの先頭に立つことこそが、唯一の戦争被爆国としてのあるべき姿。				
※賛否が分かれた採決（1、4～7）の結果は次のとおり。（いずれも議席順）					
1について 賛成：小澤・向山・熊谷・山寺・篠平・中谷・宇治・成瀬・宮下・垣内・堀内 反対：瀬戸・根橋					
4、5について 賛成：向山 反対：小澤・熊谷・山寺・篠平・中谷・宇治・成瀬・瀬戸・宮下・根橋・垣内・堀内					
6、7について 賛成：向山・宇治・瀬戸・根橋・垣内 （一括討論） 反対：小澤・熊谷・山寺・篠平・中谷・成瀬・宮下・堀内					

委員会審査から

総務産業 常任委員会

- 特別会計決算審査
- 決算に関する現場審査
- 町長への要望事項
- 請願・陳情審査



特別会計決算審査

9月13日午前11時から、14日終日まで総務産業常任委員会室において委員全員出席のもと、町長及び担当課担当者の説明を受け審査を行いました。

■上水道事業会計

収益的収入は4億729万円、前年度比1.9%、746万円の増で、収益的支出は

3億6,421万円、前年度比1.1%、397万円の増です。収支差引では4,308万円の黒字です。

問 企業債で利率の高いものが相当数残っているが、借り換えはできないか。

答 調査してみる。

問 漏水箇所の調査ほどの程度なされたか。

答 28年度は宮木、新町、今村、上下辰野、平出の内の2,026戸を調査し22カ所の漏水が発見された。29年度は赤羽、樋口、北大出、羽場の1,850戸を調査し15カ所の漏水があった。

■簡易水道特別会計

9簡易水道の歳入総額は6,350万円、歳出総額は3,891万円で、2,459万円を翌年度に繰越しました。

問 簡易水道の上水道会計への統合準備の進捗状況は。

答 当初平成31年4月統合に向けて進めていたが、資産調査等に予定より時間がかかっており、1年遅らせて平成32

年4月に変更予定。

意見 各簡水関係者は平成31年4月統合で認識しており、突然の変更には問題がある。

■公共下水道特別会計

歳入総額は9億7,420万円、前年度比1,103万円・1%の増です。

歳出総額は8億9,347万円、前年度比1,003万円、9.9%の減で、8,073万円を翌年度に繰越しました。水洗化率は93.0%です。

問 昨年度経営戦略が策定され、その中で10年後には実質収支が累計で3億円の資金不足を起こすと予測されているが、その根拠は。

答 起債の元利償還金の減少に合わせて一般会計からの繰入金も減少していくが、修繕費は徐々に増加していくため。

■特定環境保全

公共下水道特別会計

歳入総額は1億9,209万円、前年度比2,402万円、11.4%の増です。主なものは受益者負担金、塩尻市負担金等です。歳出総額は

1億8,639万円、前年比2,324万円、11.4%の増で、569万円を翌年度に繰越しました。

■農業集落排水処理施設

特別会計

5施設の歳入総額は1億824万円で、前年度比352万円10.3%の増です。歳出総額は9,352万円で、前年度比114万円、1.2%の減です。

問 平成32年度に辰野北部処理区と沢底処理区が公共下水道に統合される計画に変更はないか。また、統合による一般会計繰入金金の予測は。

答 今のところ2処理施設の統合計画に変更はない。繰入金金の予測額はまだ決まっていない。

■地域情報告知システム

特別会計

歳入総額は6,224万円で、前年度比506万円、9.2%の減です。

歳出総額は6,169万円で、前年度比524万円7.8%の減です。

決算に関する 現場審査

9月15日、次の6事業の現場審査を行いました。

- ① 社会資本整備総合交付事業 町道63号線工事
- ② 上辰野中道線配水管布設工事
- ③ 町単公共下水道工事2工区
- ④ 上辰野中道線消火栓新設工事
- ⑤ 消防防災施設整備費補助事業 上辰野耐震性貯水槽新設工事
- ⑥ 生活基盤施設耐震化事業 駒沢浄水場整備工事

各事業とも計画どおり実施されていることを確認し、以上特別会計6議案の審査結果は、全員一致で認定すべきものとした。



町長への要望事項

1. 辰野駅前地区街なみ環境整備事業の促進について

辰野駅前地区は、昭和40年の土地区画整理事業の決定以降、幾多の話し合いを経て平成25年区画整理事業については、事業変更（廃止）となりました。その後地区計画策定のための標記事業に着手し、現在駅前まちづくり協議会が住民代表により立ち上がり、課題の解決に向かって進んでいる。今後、この駅前事業における「都市計画道路の見直し」「街なみ環境整備」が停滞することなく推進されることを要望する。

答弁 平成28年度から街なみ環境整備事業に取り組んでおり、28年度は整備方針策定事業を実施し、平成29年度事業計画策定のため駅前まちづくり協議会を開催している。時間をかけても地区住民が必要とするまちづくりを推進していく。駅前事業における都市計画道路の見直し、街なみ環

境整備が停滞することなく推進していくことを希望している。

2. 町営住宅老朽化対策における管理計画の策定について

町内各所の町営住宅の老朽化が進み、住宅希望者が減少する中で、利用度の減少が目立つ。将来を見越した町営住宅の方向付けについて、長寿命化の計画をもとに早期に管理計画を策定されるよう要望する。

答弁 辰野町の町営住宅は現在13団地あり、昭和45年以前に建築された住宅が9団地と、全体の約7割を占めている。現在、老朽化のため8団地は募集を停止している。今後、住宅希望者が減少する中、利用度の減少が目立つこととあり、管理の効率化を図るため、民間住宅の動向などを見ながら、老朽化が著しい団地から取り壊しによる用途廃止に取り組んでいきたい。

請願・陳情審査

全国森林環境税の創設に関する意見書採択に関する陳情書

意見

① 基本的には賛成する。創設に当たっては税の活用法運用を明確にすべきである。
② 林業の雇用拡大になることを期待し賛成する。
③ 国民全体が同一支払いになるのは問題であり、さらに税を増やすことも問題なので反対である。

審査の結果

賛成5、反対1で採択の上意見書提出すべきと決しました。

廃棄物の最終処分場建設について住民に寄り添った指導・判断をするよう求める意見書の採択を求める陳情書

審査の結果

委員全員が「提出者に賛同できる」とし、全員一致で採択の上意見書提出すべきと決しました。

オスプレイの日米共同作戦参加中止および飛行全面停止、沖縄配備撤回を求める陳情

意見

① アメリカの抑止力の下に国が守られているので、日米共同作戦へのオスプレイ参加を拒否することは難しい。
② 色々心配はあるが、北朝鮮問題を考えるとやむを得ない。
③ オスプレイが私たちの生活を直接脅かしているかは疑問。またオスプレイの事故原因は、明確になっている。

審査の結果

④ 文章の個々に対しては理解できるが陳情内容が不明確。

審査の結果

全員一致で不採択にすべきものと決しました。

アメリカ力追隨の軍事圧力路線を正し、不戦の対話外交と国会決議を求める陳情

審査の結果

意見は前出のものと同様とのことでした。全員一致で不採択にすべきものと決しました。

核兵器禁止条約に日本政府も参加することを求める意見書提出の請願」と「国に対して『核兵器禁止条約への批准を求める意見書』の提出を求める請願書」

この2件は、請願趣旨がほとんど同じであるため一括審査を行いました。

意見

① 政府が防衛上決めることであり、政府に任せたい。
② 核保有国が参加していない会議での条約に参加しても意味がない。

③ 安倍総理発言であったとおり、核を持つ国と持たない国の橋渡しをすべきで、核兵器禁止条約参加を国会で批准してほしいので賛成する。

④ 非核三原則「核兵器を持たず、つくらず、持ち込ませぬ」の立場の日本は、アメリカの核の下に守られているから反対である。

審査の結果

賛成1、反対5で不採択にすべきものと決しました。

福祉教育 常任委員会



- 特別会計決算審査
- 決算に関する現場審査
- 町長への要望事項
- 陳情審査

特別会計決算審査

9月13日午前11時から、14日終日まで福祉教育常任委員会室において委員全員出席のもと、担当課担当者の説明を受け審査を行いました。

■ 国民健康保険特別会計

問 国保で配置されていた保健師が保健福祉課に移動になったことによる保健指導への影響は。

答 特定健診のときの保健指導を保健福祉課に依頼するという手間が一つ入るので以前の方が効果があった（やり易かった）。

意見 昨年度は、一人当り医療費が下がり、活動の成果が見えてきている。国保会計の費用の中で保健師を確保して保健指導その他の事業を行い、保険料給付を下げるべき。

問 基金の積立ができるまでになった大きな要因は。

答 高額医薬品の使用者が減少したこと、薬価が下がったこと、高額医薬品に対する補助金が支給されたことによる。また、インフルエンザの流行が少なかったことも大きい。

■ 国民健康保険診療所特別会計

問 川島診療所の受診者が少ないのに薬剤費が多い理由は。

答 在宅酸素利用者がいることによるもの。

意見 今後は在宅医療が増え、診療所の重要性は高くなるものと思われる。診療所の存続については各区関係者と

も話し合いを持つべきである。

■ 後期高齢者医療特別会計

75歳以上および65歳以上で一定の障がいのある人が対象。

問 後期高齢者医療保険に移ると市町村の保健指導の手が入りにくくなると思われる。県広域連合では把握していないので結局、保健福祉課で被保険者の健康管理をせざるを得ないのではないか。

答 県広域連合としても先進事例を広めたいとしている。

■ 辰野病院事業会計

8科、常勤医6人の医師体制。入院患者数が869人増、入院収益が2,592万円増となったものの、外来患者数が4,620人減、全体的には診療収入は18・1%の減額となりました。一般会計からの繰入金金は5億420万円でした。

経営健全化に向けた医局・事務スタッフの努力もなかなか成果に結びついてこない状況にあります。今期の病院決算審査については、福祉教育常任委員会としても今までど

おりの方法では承認は難しいとして、事務長からの事前説明、正副委員長による理事者との会談を経て、14日事務職員の説明による決算審査と合わせ、15日、病院会議室にて院長同席の決算審査・意見交換を行いました。

その主な内容は次のとおりです。

- ① 外来患者の減少の原因と対策は
- ② 医師確保にどのように取り組み、今後の展望は
- ③ 職員の配置状況は適正か
- ④ 病院経営は決算状況などから、今後の病院の経営形態等についての考えはあるか。また、何かすでに検討を始めているか
- ⑤ 上伊那地域医療構想について伊那中央病院との連携はできているか
- ⑥ 辰野病院の将来像についてどの様な病院にしたいかなどでした。

この中で、午後診療に向けた前向きな意見や、医師不足解消に向けた長期的な見通し

を聞くことができました。

意見 辰野病院改革プランは院長はじめ、医局、事務長・職員、理事者が連携を強くし、具体的な方針、行動計画を共有し、日々取り組むべき課題である。三者を核とした協議体を組織し、目的意識を共有し、行動に移すよう強く要望する。

■ 介護保険特別会計

問 認知症力フェ委託料は。

答 28年度は3カ所で開催し、認知症の方、介護されている方が一緒になって実情を話し合いながらストレスを低減しており、そこに専門職が入り、家族の相談に応じ、アドバイスをしている。

■ 両小野国保（病院組合）診療所会計

両小野国保病院組合から引き続きいだ同診療所会計について審査しました。

診療所解体工事、JA長野厚生連への新診療所建設工事に伴う補助等を行いました。組合は平成28年度で解散し、打ち切り決算として、残金

5千86万円は辰野町が管理、借地料の支払いに充てます。

問 跡地利用計画は。

答 医療廃棄物が出てきたので、病院組合として購入し、現在辰野町、塩尻市で共有している。跡地利用検討会を立ち上げ、計画を練る予定。

意見 地元から農民研修センターとの複合施設を建てることについて要望が出ている。

以上特別会計6議案の審査結果は、全員一致で認定すべきものと決しました。



跡地小野診療所跡地

● 決算に関する 現場審査

9月15日、次の2事業の現場審査を行いました。

- ① 小野保育園耐震補強および改修工事
- ② 荒神山スポーツ公園テニスコート人工芝張り替え工事

各事業とも計画どおり実施されていることを確認しました。

● 町長への要望事項

1 国民健康保険による保健師の配置とその指導の再開を

平成28年度の辰野町民一人当りの医療費は県下77市町村中36位と低く抑えられた。国民健康保険に配置された保健師の特定保健指導、健康マネジメント講座や医療情報に基づいた個別指導など、きめ細かな指導の成果の表れと思われる。同様に配置された保健師による指導が行えるよう再配置を求める。

答弁 保健師を地域包括支援センターや教育委員会なども係にも配置しており、これまでも同様、保健福祉課配置の保健師が国保と連携を密にして、国保加入者はもちろん、住民全体の健康管理、健康増進に取り組んでいきたい。

2 町内小学校児童クラブの改善を

町内各小学校における放課後の学童受け入れ状況は、支援員の数、施設の広さに比べ、適正人数を越え、学童にとっても支援員にとっても適切な状況とは言えない。

支援員の補充、施設の拡張、あるいは受け入れ条件の見直しなど、何らかの改善が必要と認められる。学童クラブ運営委員会における検討を含め、改善に向けた指示をされたい。

答弁 安全・安心な運営に施設・支援員は欠かせない。運営委員会で協議し、支援ネットワークの構築を図り、適任者発掘の努力をしていく。

3 正規雇用保育士の割合の拡大、増員を

保育士111人中、非正規職員が66人と全体の59%を占めている。責任を持つて職務に当たる職員を非正規職員として扱うことは好ましくなく、地方公務員法の趣旨にも反する。正規職員への門戸を広げることを含め、正規保育士の増員を求める。

答弁 正規職員数・率とも郡下で伊那市に次いで高く、職員数は類似団体の1.5倍である。少子化の時代を迎え、将来予測しながら適正対応していく。多くの職員によって厚く対応できていると思う。

● 陳情審査

私立高校に対する公費助成をお願いする陳情書

趣旨

授業料の負担軽減策として26年度から「就学支援金」制度が改正されたが、保護者の負担は深刻な状態が続いている。また私立高校において教育環境の改善が求められており、経営も厳しい状況である。かつては辰野町でも助成制度があったことから、復活を要望すると共に、公教育の一翼を担う私学振興のため次の2項目の陳情をしたいとするものです。

- 1. 私立学校に通う生徒の保護者負担を軽減するため、保護者への直接補助を行ってほしい。
- 2. 国・県の関係者に対して、就学支援金制度の拡充並びに私学助成の増額ための意見書を提出してほしい。

まず、この間継続して提出されている陳情と同じ内容であることを確認し、審査を行いました。

意見

- ① 南信・東信地区私学から陳情は出されていない実態を考慮すべきであるが、私学に通う保護者の学費負担増等は顕著であり、趣旨は理解できる。
- ② 財政が厳しい折、辰野ににおける助成制度復活へ向けた意見書の採択は難しい。
- ③ 国・県の関係者に対して、就学支援金制度の拡充並びに私学助成の増額に対する意見書提出には賛同できる。
- ④ 今回は一部採択が妥当である。

審査の結果

全員一致で一部採択（陳情第2項のみ）のうえ、意見書を提出すべきと決しました。

「病院経営形態あり方検討委員会」設置の考えは

町長 設置に向けて検討したい



根橋 俊夫 議員

辰野病院経営の課題

問 辰野病院の経営状態は、単年度損益で約6千5百万円の赤字で、医師確保の見通しが立たない中では、医師不在により閉院に追い込まれるのではないかと不安が高まっている。町監査委員の決算審査意見では、「経営体制について抜本的な改革も

視野に入れて検討する必要がある」と述べているが、「病院経営形態あり方検討委員会」設置の考えは。

事務長 設置に向けて検討したい。

問 昨年度実施した「経営診断結果」では病院事務職員の役割について、「一般行政の業務とは大きく性格が異なり、役場の人事ローテーションでの赴任では健全な病院経営を進めるうえで障害になっている。病院経営に精通した事務職員の計画的な育成を行うこと」を提言している。今後の具体的な対応方針は。

事務長 必要性については認識しているが今後の課題である。

問 外来患者の減少が経営を圧迫している。月曜日の診療枠の拡大や午後診療の開始など当面の経営改善対策の具体的な取組みは。

事務長 月曜日の診療枠の拡大は9月から実施している。午後診療については、困難性はあるが検討してみたい。

第七期介護保険事業

問 小規模多機能型居宅介護施設について、現在は第2グレイスフルで休止となっているが、第七期での事業実施計画は。

課長 同事業についての実施は考えていない。

農地法許可取消し申請

問 農地法第4条、第5条の許可申請後の事情変更に伴う、許可取消し申請は、他の府県では広範囲に認められている。

辰野町農業委員会は県知事から許可権限が移譲されているのであるから、許可取消し申請を認めるべきと考えるが、今後の対応は。

農業委員会長 現在は対応していないが、県の事務処理に準拠して対応を検討したい。

地滑り警戒区域の早急な避難計画作成を

町長 地域と一緒に進めていきたい



瀬戸 純 議員

問 平成28年3月、県は赤羽区東山地域を「地滑り警戒区域イエローゾーン」に指定した。住民へは一度の説明だけで、その後赤羽区は、町へ地滑り察知センサーの設置をお願いしたが町としてはできないとの返事だった。防災計画を立てることも



平成28年2月29日 住民説明会 県作成資料地図

なく、現在まで住民は不安な中暮らしてきている。早急な避難計画作成を要望する。

課長 指定を受けてから積極的に避難計画の作成をして来なかった。申し訳なく思っている。避難計画は町の指導で住民がつくることになっている。今後、地域住民と一緒に進めていきたい。

新入学児童生徒学用品費入学前支給を

問 塩尻市では今年3月から小学6年生に対して入学前支給を実施している。両小野小学校に通っている塩尻市の児童には入学前の3月に支給されるが、辰野町の児童は支給されていない。国から早期支給を行えるよう町に指導が来ているはず。

一番お金のかかる入学前の時期の支給は制度の目的・趣旨そのものだ。入学前支給の考えは。

教育長 早期支給も視野に入れながら教育委員会でも検討を進めていきたい。

福祉医療費

窓口無料の拡充を

問 当選当初より要望して来た、子どもの医療費窓口無料を18才(入院・通院)まで行うという議案が今議会で提出されている。素晴らしい町の決断だと歓迎する。しかし、受給者負担金1レセプト500円の支払いは残ったまま。中川村・飯島町・宮田村では受給者負担金を自治体が全額補助することが決まり、本当の窓口無料になった自治体もある。受給者負担金補助への町としての考えは。

町長 今は考えていない。県に準じてやっていきたい。

リハビリ専用温泉プールを 荒神山スポーツ公園へ

町長 運動施設に該当するので可能ではある



成瀬 恵津子 議員

問 温泉プールリハビリ効果の町の見解は。
課長 温泉には、けがや病気に對して有酸素運動、運動機能回復効果、心理的効果ももてる。
問 リハビリ専用温泉プールは荒神山スポーツ公園基本構想の中で可能か。
課長 運動施設に該当するので可能である。
問 岡谷の温泉リハビリプールに通うには遠い。「辰野町」に是非設置してほしい」との多くの要望がある。リハビリ専用温泉プールの事

業の検討は。
課長 新たに事業を展開して作るには、効果がうすい。



諏訪湖ハイツ歩行プール

電力自由化推進の 進捗状況は

問 6月議会から現在までの進捗状況は。
課長 近隣市町村でも電力切り替えを行っている。全施設導入が望ましいとの説明を受け、現在22施設すべて切り替え予定で、詰め段階に入っている。契約方法は、随意契約の方向でいく。

問 22施設を新電力事業者に切り替えた場合の削減金額は。
課長 900万円から1,280万円の削減効果がある。

問 新電力に切り替えした場合、停電等災害時の対応は。
課長 トラブルが発生した場合、大手電力会社が対応する。発電設備に異常が起きた場合でも、大手電力会社がバックアップする。不利益を被ることはない。

問 開始はいつ頃か。
課長 12月1日から。

乳児聴覚検査費の 補助の実施は

問 飯島町では補助を出しているが、町で補助を出さない理由は。
課長 長野県では、公費負担をしている市町村があまり見受けられない。
問 町として補助金を出す考えは。
課長 近隣市町村の動向を見て検討する。

就任時の思いは

町政に「新たな風を」と掲げた



垣内 彰 議員

加島町政について
問 4年間の成果は。
町長 職員の意識改革。町民からも役場が変わったとお褒めいただいた。

問 仕掛り中の施策は。
町長 開発公社の負債はあと少しで解消できる。

荒神山公園の今後は
問 リノベーション事業の範囲は。
課長 プール部は処分制限期中なので、管理棟のみとなる。周辺はイベント等に使用する。

問 昨年度、基本構想と基本計画が公表されたが、実施計画は策定するか。
課長 予算が無いので策定しない。

提案 基本計画で方向性が示されたのだから、具体的な計画と、優先順を決めるべきだ。
辰野水処理センター
問 B・DASHの構造・効果は。
課長 反応槽内を多段(12槽)化し、異なる微生物層を形成し、汚泥の自己酸化と、食物連鎖により汚泥発生量の削減を図る。実証研究において各種のデータを取る予定。



辰野水処理センター

問 臭気データも含まれるか。
課長 含まれるが、国交省との取り決めがあり、データの開示は来年度以降となる。

問 測定データには、周囲も含めた臭気のデータもあるか。B・DASHの実験槽と従来型槽との臭気のはできるか。
課長 周囲のデータはあるが、従来型との臭気比較はできない。

問 実証期間中のフィルター交換の必要は無いが、その費用は国で負担するか。その後辰野町で施設を稼働する場合のメンテナンスを含むコストは。
課長 コストについては今後国交省との話し合いで決まる。

荒神山遊歩道を 自転車ダウンヒルコースに

町長 県の補助金を受けており
今は難しい



熊谷 久司 議員

問 今年度ウォーターパークの後利用について着手できたことは、町行政の大きな成果と評価している。管理棟以外のプール等を撤去するには補助金返還の罰則があると聞けが、その額と期間は、
課長 補助金残存額8,700万円であと4、6年残っている。

問 まもなく管理棟のリノベーション工事に入るが、プール部分の後利用についてはどうなるのか。
課長 補助金返還が必要な間は、現在の施設を活かした方法で活用し、返還の必要がなくなれば多目的広場、公園広場として再生を図りたい。

下水道老朽化対策は

問 今後10年の下水道会計は、3年後から実質収支がマイナスに転じ、10年後には3億円の累積赤字となるとされている。今後維持管理費の増加が心配される中で有収率（料金徴収できた水量と処理場に流入する水量の割合）の悪化が目立つが何が原因か。
課長 水道管の継手や破損部分から入り込む不明水が原因。点検・調査により必要に応じて修繕していく。

問 平成26年度に策定された耐震化実施計画

の内容は。

課長 建物、機械設備のほとんどに耐震化が必要となっているなかで、今年度辰野水処理センターでは汚泥処理槽の工事等を実施する。機械設備については今後更新時期に合わせて実施していく。

問 長寿命化計画の内容は。
課長 辰野水処理センターでは平成26年度から2か年計画で延命化に向けた機械設備の更新を行った。小野水処理センターでは今年度実施する。

小中学校トイレの 洋式化率は

問 小学校で和式トイレを嫌がり困っている児童がいると聞けが。
課長 町内小学校の洋式化率は34%（221台中75台）である。中学校はすでに100%洋式化されている。今後小学校も順次洋式化率を高めていきたい。

最終処分場問題、 町長が組合へ働きかけを

町長 そういふ風にしていきたいと思っている



向山 光 議員

問 板沢への最終処分場建設問題で、建設阻止期成同盟会との懇談会では金子諏訪市長は「辰野側の同意なしに事業は進められないと思ふ」と発言したが。
町長 そのとおりと理解している。よくぞ言う



期成同盟会との懇談会で説明する金子諏訪市長

ていただいたと思う。

問 今までの地元を応援するという立場から、さらに、町の行政の責任者として「板沢地区への建設はしない」という結論を早急に出すよう組合へ働きかけべきではないか。
町長 そういふ風にしていきたくと思う。

「声高らかに夢を語る リーダー」とは

問 町長がこの言葉に込めた思いは何か。
町長 自分は実務派で、下ごしらえはしたが、少し先のことを語ることも必要と思う。
問 財政は心配ないというように誤って伝わらないか。
町長 人口減少で収入も減り、財政は厳しい。人口規模に合わせた町政運営するのは難しい。

い。それを前提としても、できないと言っているだけではなく、夢に向かって突き進むことが必要と思ふ。

職員に対する 処遇の改善を

問 町内出身者の町職員への応募が少ないのでは。
町長 少なくともいる。町に魅力が無いのか、他の町村の方が条件が良いのか、とか迷うこともある。

問 処遇に問題はないか。共働き職員に対する処遇は改善されたが、給料の状況は。
課長 国家公務員と地方公務員の給料を比較するラスパイレス指数は、町は郡内で最も低く、同規模の町村と比較しても低い。

問 改善をすべきではないか。
町長 標準ぐらいまでは思っている。
課長 職員の士気にもかわることなので改善していきたい。

ICT教育の取り組み状況は

教育長 学力育成指導の一つとして
効果的に展開したい



山寺 はる美 議員

の方がICTになじま
ず準備不足の課題もあ
るといふ。指導者の民
間活用は。

課長 研修や授業づく
りの助言などの手助け
になる。適任者であれ
ばアドバイザーの民間
登用も考えている。

問 辰野町の情報通信
技術（ICT）を活用
した教育の現状、今後
の展望は。
課長 小、中学校にイ
ンターネット環境の整
備を進め、タブレットは
小学校で82台（西小18、
東小12、南小12、川島
小7、両小野小33）を
配備。中学校は99台で、
2クラス同時でも1人
1台使える。基礎操作、
情報モラルなど小学校
での学びを基盤に、中
学校でプログラミング学
習を充実させる。
問 子どもよりも教員



西小学校にペッパー君が来たよ！
(たつの新聞社提供)

辰野病院の外来患者 減少対策は

問 外来患者減少の原
因を病院はどう捉え、
対応策として何を行っ
ているか。

事務長 大きな原因と
して、医師不足で希望

する診療科が受診でき
ないことや、近隣の新
病院完成による患者流
出などと認識している。
全職員参加型の検討委
員会を開き、様々な策
を考えたい。診療時間
拡大や訪問診療の意見
も出たので、医局とも
話し合いたい。

ボランティア ポイントの導入は

問 町のボランティア
ポイント導入の検討状
況は。

課長 ボランティア参
加の動機付けになれば
意義がある。社協で研
究会を立ち上げたが、
対象活動や還元方法、
財源確保など課題が多
く、検討を休止してい
る状態。

意見 ボランティアポ イントも様々な取り組 み方があると聞く。他 の市町村の前例も参考 にして、辰野町独自の ポイントサービスを早 急に検討していただき たい。

道徳教育の教科化 に伴う評価方法は

教育長 数値評価でなく道徳性に
係る成長の様子を記述する



堀内 武男 議員

問 道徳教育の教科化
の狙いと目標及び従来
教育との相違点は。

教育長 教科書を使い、
道徳教育を充実させる
ことが狙いだが、感じ
方や考え方は多様であ
り、より深さを求め、
様々な視点から理解し、
道徳的価値の実現を図
り、強い意志を持てる
ようにすることが目標。

道徳の時間が教科に格
上げされた以外は従来
と大きな差はない。

問 教科書選定の主管
と基準は何か。教科書
はどこに決定したのか。

教育長 上伊那採択地
区協議会の選定した
「光村図書」を町として
採択した。日常生活に
繋がるヒントや児童の
発達段階に即し、人権
擁護や生命尊重を基本
に備えており、信濃教
育会の趣旨に近い。

問 教科として授業は
誰が担当するのか。

教育長 道徳教育は教
育活動全体を通して行
うため、児童と付き合
いの多い学級担任が行う。

問 道徳教育時間確保
の方策と、夏休みの短
縮等の必要性は。

教育長 現行でも週1
時間は確保されており、
夏休みを短縮するの時
間確保の必要はない。

問 教科化に対する保
護者等への説明は。

教育長 評価方法等に
対する不安解消に向け

「町教育課程研究委員
会」で検討し、説明の
機会を設けたい。

問 評価やその扱いは。

教育長 児童生徒の学
習状況や、道徳性に係
る成長の様子を相対評
価でなく、絶対評価・
個人内評価とする。高
校入試の調査書には評
価の記述はしない。

問 家庭や地域社会が
一体となった教育の推
進が必要では。

教育長 教科化を進め
る上で共通理解を深め
ることは重要である。
授業の実施や地域教材
の開発・活動などに保
護者や地域の参加協力
が不可欠であり、相互
の連携を図るよう計画
したい。



次年度道徳の教科化が始まる小学校

機能別消防団員・分団制度の導入は

町長 改めて検討を始めている



小澤 睦美 議員

地域における

防災組織強化を

問 地域に昼間消防団員がいけない場合に火災等に対応ができる機能別消防団員・分団制度があると聞かすが、どのような制度か。また近隣で導入された例や町でも検討しているか。

課長 特定の活動のみ参加する団員で報酬も

出される。伊那市長谷には、有事に出動するOBが所属する長谷機能別分団がある。機能別消防団員については、塩尻市消防団の榎川分団に消防OBが所属し式典等には参加しないが、有事の際には出動する。町では、6月の消防委員会、分団長会で機能別消防団員制度について説明し、改めて検討を行うこととしている。

問 地域における消防団員確保は、厳しさを増している。町職員で構成している常備部の団員を居住地域の分団へ配置換えする考えはないか。

課長 常備部は発足当初から昼間火災に対応するのが目的で現在も変わっていない。昨今では、その存在意義が増しているため、現在の団員の地域への配置換えは難しい。

移住定住人口の促進策は

問 移住促進について、宝島社の月刊誌「田舎暮らしの本」の「住みたい田舎」ベストランキングアンケートに町も回答し、今後の施策の参考にすべき。

課長 移住希望者にだけなく辰野町の知名度をあげるための有効な手段と捉え、上位にランクされるよう精査し、アンケートに回答したい。

問 定住の促進について、駅北側の有料駐車場を、以前のように無料とし、通勤者の便宜を図ったらいかが。

課長 管理面、地元要望などから有料化した。無料開放は考えていない。



辰野駅北側有料駐車場

加島町政4ヶ年の事業評価は

町長 「よりあい会議」「福寿苑跡地利用」「とくし丸導入」が思い出深い



宇治 徳庚 議員

問 加島町政4ヶ年を経過した今の思いは。

町長 最初は心配もあつたが、「どんなことも少しから」を心掛け、一歩一歩前進できる様に努力してきた。

問 思い入れの強かった事業と評価。(2〜3件)

町長 ①基本計画策定に当たり地域の「よりあい会議」で住民の生の声や思いを聞いて総合戦略に生かしたこと②福寿苑跡地利用が相手にも恵まれ、素早く対応した職員を評価した③買ひ物弱者対策の1

つとして、テレビを見て折衝した結果「とくし丸」を導入出来たこと。

問 一定の方向付けができた事業は。

町長 ソフト面では、土地開発公社の債務超過解消に向け議会の理解を得て、簿価があと2〜3年で町所有に移管できる目途ができた。ハード面では、ウォーターパークを国の補助を得て新たな取り組みがスタートできた。

もう一点は辰野駅前整備について、住民の協力を得て委員会も立ち上げ半歩という片足を上げたこと。

問 4年で区切りとした最大の理由は。

町長 この4年間は地ならしをして次に進めたいと考えてやってきた。私の性格は内向き

の町政をしてきた、次は表に向かった町政をしなければと考えた時、性格的に私にはできないと感じたことが最大の理由と思う。

県森林税の活用と

継続の是非は

問 この5年間で町の森林税の活用状況は。

課長 町では森林づくり推進支援金や木育推進事業、民間ではみんなを支える里山整備事業などを実施してきた。この5年間では計画を含めて2,010万円の実績となっている。

問 県の森林税について町はどの様な見解か。またこの制度は今後とも必要と考えるか。

課長 森林を次の世代に引き継いでゆくために、県民全員で支えていくという趣旨には大いに賛成でき、積極的に活用しているのが実態である。

町としては、今後とも継続を希望している。県には回答した。

第70回ほたる祭りを迎えるが

町長の思いは

町長の発展や振興策に繋がりたい



中谷 道文 議員

問 70回の記念すべきほたる祭りに向け、六次産業検討事項として提案する。

一、「ほたるの里」辰野町と標記した看板の設置。

二、「動く看板」として高速バス、電車(都電、飯田線等)に祭りのポスターを。

三、歌謡ショウ等の開催を。

四、記念講演会開催。

五、町民総踊りに、小学生の参加を。

六、「東京朝日会」や「ふる里辰野会」の皆さま



ほたる童謡公園設置看板

んに、観客客ツアーや支援策を。

課長 参考意見として関係担当部に回り、検討いただき、採用できることは前向きに進めたい。

道路対策町の考えは

問 国道153号のバイパスについて町の考えは。

課長 バイパス対応については、国道153号を生活道路と見て、宮所を最優先に考え推進している。また、国



町道 2175 号線の現状

課長 町も危険が多い箇所と判断しており、町単道路改良で対応したい。区や町の優先順位もあるので、地元区の中で整理してほしい。

問 町道2175号線の整備について町の考えは。

に定期的に繋いでおり、時期をみて対応したい。

問 スマートインターチェンジの研究促進については。

課長 スマートインターチェンジについては、果たして、本当に辰野町の発展に寄与するか疑問であり、生活道路が最優先というのが町の方針。

～第11回議会報告会のお知らせ～

第11回議会報告会を開催します。ぜひ、お出かけいただきご意見ををお願いします。

日 時：平成29年11月17日(金) 午後6時30分から午後8時まで

場 所：役場第6会議室(2階)

報告内容：6月・9月定例会の内容、常任委員会等の活動

【分科会意見交換】

- ・総務産業常任委員会 分科会テーマ 「道路問題について」
国道153号現道整備と辰野バイパス西ルート東ルート、町道の整備について
- ・福祉教育常任委員会 分科会テーマ 「学童クラブの実態と対応について」
放課後、夏休み等の子どもの過ごし方について

※意見交換会は、2会場にて分科会形式で行います。詳しくは、ホームページ、回覧板をご覧ください。



昨年の議会報告会の様子

長野県町村議会議員研修会

7月19日(水)、長野県町村議会議長会主催の標記研修会が松本キッセイホールで行われました。

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科教授・平田竹男氏による「スポーツによる地域活性化」と題した講演がありました。

次に、新潟県立大学准教授・田口一博氏による「議員のなり手不足について」と題した講演がありました。町村の共通課題であり、多くの質問ができました。

議会あり方検討委員会を設置

辰野町議会は、9月12日の全員協議会において「議会あり方検討委員会」の設置を、全会一致で決めました。

この委員会は議員6名で構成され、平成30年12月を目途に、毎月1回のペースで、これからの議会に必要な対応策を調査・検討して、一定の方向付けを提言するものです。

主な検討項目は「議員定数」「議員報酬」「政務活動費」「費用弁償」「特別委員会」「各種審議会等への議員参加」「その他必要な事項」となっています。

各常任委員会 初のタウンミーティング開催

～若者が感じる辰野町～ 総務産業常任委員会 6月30日開催

若年層の町に対する率直な考えをお聞きしようと、対話集会を開催し40人が参加しました。

●道路状況について

意見 国道伊那方面から来てオリンパスへ曲がる右折車線が欲しい。幹線道路への抜け道となっている生活道路への不法投棄やスピードを出す車が増えた。幹線道路がしっかりしていれば抜け道・生活道路に車は入って来ないと思う。車を入れないという方法も大切ではないか。人を守る方が先決だと思う。

議員 計画的に道路をつくる必要があると思う。

●住宅状況について

意見 町外居住の土地所有者と町とのつながりができると良い。分譲で空いたりすると早い段階で住む人がいる。若い人が住みたい所と空いている所とのずれがあるのではないかな。

議員 計画的に「この地域は住宅地にしよう」というような発想が少なく、そこに大きな問題があると思う。

●就労機会について

意見 都会から来た農業をやりたい人を育て、町に土地の相談をしたが、契約期間等の問題を言われ、まともな結局箕輪町に行ってしまった。都会の人が入ってくれるチャンスだったが残念だ。

議員 今回の意見を参考にしたい。一つずつ問題解決して行こうという気持ちが大切だと思う。

～辰野高校のあり方について～ 福祉教育常任委員会 8月25日開催

「辰野高校のあり方について」をテーマに、役場第6会議室において、住民のみなさん47名が参加して開催されました。

始めに河手辰野中学校長、宮原辰野高校学校長から、両学校の現状について報告がありました。

続いて議会側から、県教育委員会の資料にもとづき辰野高校の位置付け、再編に当たっての県教育委員会の考えなどの説明があり、これらを受けての質疑応答や活発な意見が交わされました。

●代表的な意見

- 辰野高校は中山間地存立校に入る様だが、地元中学校から50%進学しなければならないとする考えはおかしいと思う。伊那や諏訪からも来ていることはむしろ辰野高校の良さだと思う。
- 商工会もインターンシップを普通科にも広げており、お互いの方向性は合っている。むしろ生徒数を減らしてはいけない。それには辰野高校の魅力は何か。地道な努力と県への働きかけが必要と思う。



編集後記

広報副委員長 瀬戸 純

新しい編集委員での2回目の議会だよりで。前号66号から表紙デザインが大きく変わり、手にとってもらった方も多いのではないだろうか。「絵がかわいい！初めて開いてみようと思った」との声もいただいています。しかしながら、ページを開いたら「中身は変わってないじゃん」との声もいただいています。編集委員会では町民のみなさんの「知りたい」を、どんな形で掲載して行けばよいか、毎回考えながら工夫して編集に取り組んでいます。議案等の掲載の仕方も変化を付けてきました。みなさんお気付きですか？今後はどんな工夫・違いがあるのか是非とも見つけてみてください。

